

関西地域の「みんなのくらしと放射線展」における知識普及活動

Information transfer activity through “Radiation and our daily life fair” in Kansai region

*古田 雅一¹，みんなのくらしと放射線展知識普及実行委員会

¹大阪府立大学放射線研究センター

関西地域においては大阪府立大学を事務局として 9 機関の放射線関連団体が「みんなのくらしと放射線」知識普及実行委員会を組織し、「小・中学生」「保護者」及び「高校生」を対象とした「みんなのくらしと放射線展」を 30 年以上、継続して開催してきた。その概要を報告し、今後を展望する。

キーワード：知識普及活動、放射線利用、放射線教育

1. 緒言

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故以来、放射線汚染や健康影響などの風評被害が重大な問題となり、放射線に対する正しい知識の普及がより一層求められている。関西地域においては大阪府立大学を事務局として 9 機関の放射線関連団体が「みんなのくらしと放射線」知識普及実行委員会を組織し、毎年夏休みの時期に「みんなのくらしと放射線展」を大阪市内の百貨店などオープンスペースを会場として開催し、32 年間延べ 50 万人以上の来場者に対して様々なアトラクションを交えた知識普及活動を行ってきた。特に原子力発電所事故発生以降は、混乱や誤解を避けるために、「小・中学生と保護者に対する体験実習」及び「高校生によるプレゼンテーション」に的を絞り、きめ細かな放射線の知識普及を行うとともに、一般参加者を対象とした展示も継続して行っている。右図は 2015 年度の案内チラシである。



2. 実施内容

2-1. 小・中学生と保護者に対する体験実習(放射線親子セミナー)

霧箱工作や掃除機で集めた空気中のチリや野外での放射線測定など、「体験」を通して楽しく放射線について訴求した。また分かりやすいサイエンスショーを実施した。さらに、保護者を対象とした「放射線ミニツアー」を実施することで、大人に対しても、放射線の正しい知識を訴求した。

2-2. 高校生によるプレゼンテーション (ハイスクール放射線サマークラス)

放射線について高校生自らが調べ、学び、考えたことを学校対抗形式で発表する「第4回ハイスクール放射線サマークラス」を実施した。過去最多の9校が出場し、今年度は最優秀賞1校、審査員特別賞2校が選出され、各校は発表終了後、放射線展の展示コーナーの見学、交流会で親交を深めた。

2-3. 放射線利用の実物展示、パネル展示

一般の来場者向けには、様々な展示や実演を楽しめるスペースを設け、霧箱や食品の放射線測定、韓国からの輸入切り花の放射線殺虫など、実演や放射線クイズラリーにより身近な放射線や放射線利用の知識普及を行った。さらに関西地域の原子力、放射線関連の学部、施設を持つ大学や研究機関の紹介も行った。

3. 結論

アンケート調査の結果、参加者の満足度は 8 割以上に達している。

*Masakazu Furuta¹

*¹ Radiation Research Center, Osaka Pref. University;